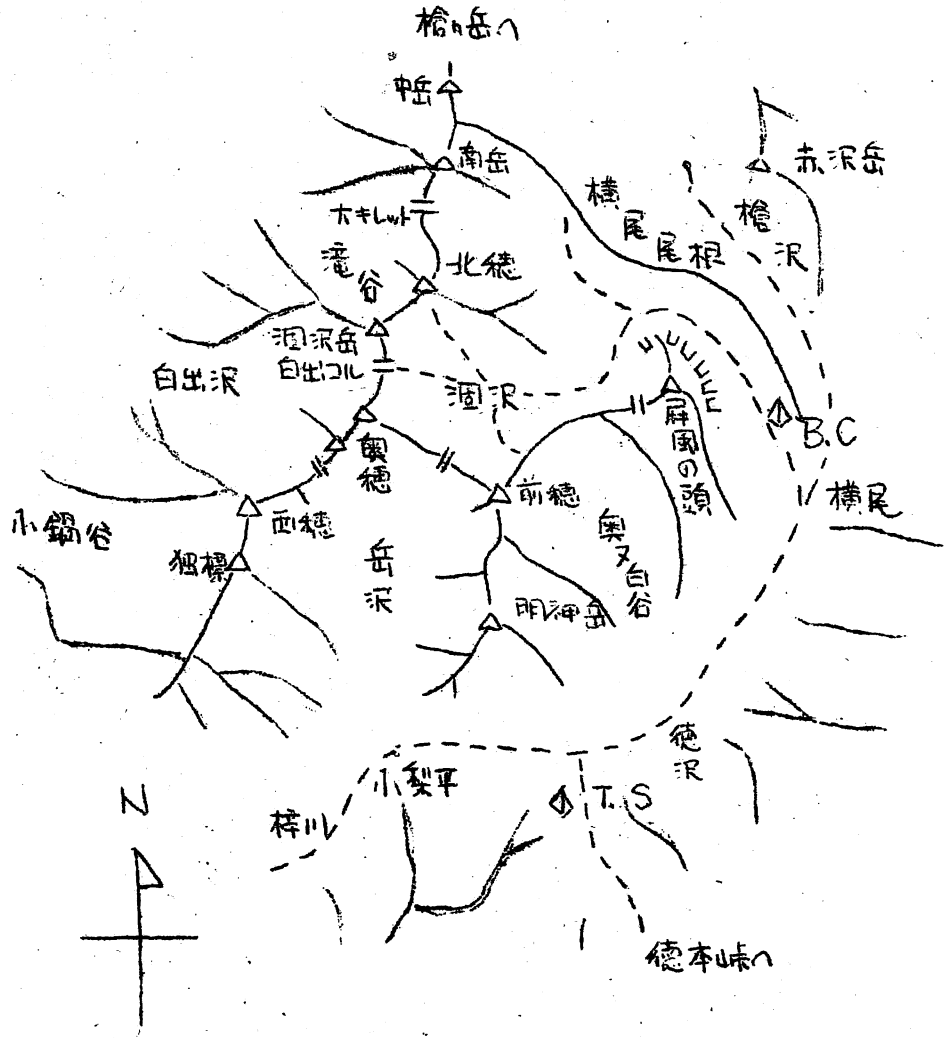


# SAC 1976

## 新人合宿報告書 I



信州大学山岳会

# ① 行動記録

● 5月30日 ◎ → ●

5:40 島々宿着 — 5:50 ~ 6:00 5つのパーティに別れて出発 — 1:45 徳本峠着 (一番早いパーティ) — 4:00 白出合の天場設置

今年も雨に降られた。一年生にバテた着がいたが俺がか天場に着く。いつまでもバテずについてくる一年生にアセっていた二年生もいた。

● 5月31日 ◎ → ●

6:20 前後各パーティ出発 — 9:30 頃 横尾天場着 B.C 設置 — 11:30 ~ 14:30 オルニせて雪上訓練 (2年生以上)

今日もバテた一年生がいた。例によってお墓の対岸で黙禱をせよ。横尾にはレイシヤの長谷川氏があられ一緒に花生活するこになる。

● 6月1日 ◎

4:00 B.C 出発 — 6:00 洞沢着 その後 雪上訓練  
ア. 5.6のゴルパーティ 12:30 洞沢発 — 13:30 ゴル着 — 洞沢 — 15:35 B.C 着  
イ. ゴニテ・スワカトパーティ 12:00 ~ 13:30 スワカトの練習 ~ 14:30 ゴニテの練習 — 5.6のゴルパーティと合流し B.C へ。

● 6月2日 ●

沈殿の後、お墓参り

11:00 B.C 発 — お墓参り — 2:00 B.C 着

予定は、ア. 雪上訓練 ~ 白出のゴル

イ. 奥又丹峰、松高、北条-新村、甲南ルート

● 6月3日 ①

4:00 B.C. 発 — 6:00 涸沢着 — 10:30 まつ 雪上  
訓練 — 10:50 涸沢発 — 12:50 北穂着 — 14:20  
涸沢 — 15:30 B.C.

登攀パーティー

① 滝谷1尾根パーティー (L. 藤島, 中嶋)

② ワラワ尾根パーティー (L. 岡本, 箕田)

①② 両パーティーは一緒に北穂近くまで登ったが岡本  
さんが目まいがするので②パーティーは下山。①パーティー  
は、11:45 北穂着 — 取付 13:00 — 北穂 15:10 — B.C.  
17:00 涸沢は、アイゼンで下ったが雪はガワガワ。1尾  
根は夏と変わらない状態でワラワであったそうです。

「あまりおもしろいルートではないと思う。」(中嶋)

③ 四峰 松高ルート (L. 吉川, 下田) (取付 12:05  
終了 14:10)

④ " 北条・新村ルート (L. 吉橋, 山本) (取付 12:10  
終了 15:20)

⑤ " 甲南ルート (L. 川瀬, 村田) (取付 12:15  
終了 16:30)

③④⑤ パーティーは一緒に 10:05 涸沢発 — 5.6 のコ  
ル 10:33 に着き、それぞれ登攀

松高は、「晴れた日の岩登りは、とても快適でした」  
(下田)

北条・新村は「ハンゲは、なかなかしんどかった。そのうち  
フリーで登るつもりです。」(山本)

「予想以上にしんどかった。」(吉橋)

甲南は「もう二度と、行く気かしない。」

その後 16:45 四峰 P — 18:25 B.C.

● 6月4日 ① → ②

4:30 B.C. 出発 — 6:30 涸沢着 — 雪上訓練と  
スタカートを 2パーティーに分けて交代でやる。 — 11:00  
涸沢発 — 12:40 白出のコル — 13:30 涸沢 — 14:30  
B.C. 着。

みんな疲れがたまっている感じでしんどかったです。

登攀パーティー

- ① 滝谷四尾根パーティー (L.土田,片山) (取付 11:10  
終了 13:30)
- ② " 一尾根パーティー (L.二保,瀬戸) (取付 12:40  
終了 16:20)
- ③ クラック尾根パーティー (L.岡本,眞田) (取付 12:10  
終了 16:40)

①②③パーティーは、一緒に 8:10 酒沢発 — 10:05 北穂着の後、取付へ向ったが……

四尾根パーティーの2年生片山がC沢下降中滑落したが、大したけかもなくすみ、無事に四尾根を登った。

「非常に反着しています、ハイ」(片山)

②③パーティーは、一緒にB沢を下ったが取付のバンドでギヤルを使用したいが時間がかかたそうです。

一尾根は「凹角は快適であたが岩が氷のように冷たく、岩の状態はあまりよくなかた。先行Pがあれは落石注意である。夏にもう一度TOPの完全フリーで登ってみたい。」(瀬戸)

クラック尾根は、「高度差のあるところか」二わがた」(眞田)

「心配事の多い登攀でえらがた」(岡本)

①パーティーは登攀後、北穂Pで②③パーティーを待ち、お茶をこちそうになて、一緒にB.Cへ向った。

B.C着 18:25.

6月5日

ブ 槍沢より穂ヶ岳パーティー

4:00 北穂発 — 穂ヶ岳 — 5:10 — 一保

6:40 槍沢雪渓を登り、たすきかき返す

7:40 よりバラバラとB.C着

小市の平生発「もっと降らなければ」と思いつながり快調にとぼす雪渓に出た頃より本降りになり、二級生の雪議の結果、残念ながら(?) 穂ヶ岳を断念。山菜をとりながら帰った。

1. 樽尾尾根より樽ヶ岳パーティー

4:10 B.C. 出発 — 5:05 樽尾本谷へ入る —  
6:30 カールの底よりひき返す — 7:55 B.C. 着

○ 登攀パーティー

① 屏風岩東壁 鵬翔ルト (L. 須貝, 空和)

4:05 B.C. 出発 — T4 尾根取付 4:50 — 大テラス 6:50  
— 終了 9:00 — 屏風の頭 10:20 — B.C. 着 11:40

T4 から大テラスまでのルートは「日本の岩場」のものとは違った所を登った。最後のピッチでは、ホルトが抜けたが落ちなくてすんだ。

「実に寒かったですよ」(空和)。「あんなもんじゃよ」(須貝)

② 屏風岩東壁パーティー (L. 吉田, 師田)

T: 6:10 — 9:25 登攀終了 — 10:50 B.C. 着

「寒かった。もうこりこり。何で T4 基部から引き返さなかったのか不思議。誰かが引き返そうと言ったら、みんなえっ返事で引き返したがるつに」(師田)

夜は例によってコンパ。1年生は比較のおとなしくて、バカな2年生がさわいでいた。リーダーは川につけられたそうです。バンザイ!

● 6月6日 ① → ②

8:00 出発 — 8:54 徳沢園 — 9:46 明神  
— 10:53 バスターミナル

新人合宿最後の行動であり、うれしくもあり、疲れがどっと出た感もある。(新人)

上高地でビールを飲み、下山の無事を祝った。  
松本部屋で meeting をして解散。

## 2. 各係からの反省

### \* エッセン係より

第一に Essen 自体としてはかなりうまくいったと思う。残った Essen も少なかつたし、味自体も例年に較べて良かったと思う。また昼食のクズケーキもうまくいきそのため Essen 費をかなり安くすることができた。

ただ朝食のクズパンをカボラせてしまったのは、読みの浅さであって、まったく申しわけない。

また 山行の中で Essen の占める役割は大きなものであるが、山行の目的によってそれは大きく異なったものとなってくる。

ある時には、食事そのものを楽しむといった登山もあるだろうし、また ある時には、食べれば良いといった様な付随的な物になることもある。

1年庄の人も山のメシとはこんなものだ"などと嘆めてしまわないで、これからも努力、研究してより山行にあった Essen を作りだして貰ってほしい  
(山本)

### \* 装備係より

いいかげんな装備係でした。以下その内訳です。登山具が少なかつた。メインギアを8本持っていきながらハーケンが16-16-4 だった。1パーティー4-5本では十分とはいえなかつた。シュリング、ボナハンマー、アブミはかなり個装にたより個数だけは一応そろえたが質はどうしようもなかつた。

ガスの整備不良が一台あった。またガスボリでガスがもれたものがあった。あるていどやもえないが1年には、はっきり指導すべきだった。

例によって靴の底がはがれたのが2つあった。(1年目の新品と2年の1.5年目のもの) 質の低下が手入れ不十分がは別として、その修理の釘金、クギ、木ネジが、いいかげんだった。クギ、木ネジは長すぎ、釘金は細すぎた。(太いのはローソククリ用) もう1つ「ドライバーを忘れました。」

布のガムテープを1巻持っていたが全部なくなった  
靴ずれ対策に使うガムテープは装備のかわりか?  
また、キスリングがこわれたどうしよう?

天気図用紙が少なかつた。(50枚) 1年生+2年生が  
が毎日とるだけの数が最低必要。

準備段階の装備係4名中2名(福井、左山)が入山で  
さす直前にセトが入って3名になった。この事もあ  
って2年生2名(セト、ミノタ)に十分動いてもら  
えなかつた。2年生に中心になって動いてもら  
う3年生はそれを指導すべきである。2年生に  
来年のために悪いことをした。

下山後も 装備係の反省会をもてなかつた  
(二保)

### ※ 計画書の変更点

- ハンマー → 個装8本 + 個装4本
- アブミ → 8台 + 12台
- ナベ → 特大×2, 大×5 中×1
- ジャンク → 2セット
- ヨロキリ, リセクター なし
- ホルト → 6
- クギ, 木ネジ 若干

### ★ 記録係列

山で首尾よく思いを遂げ、又、不覚をとらず生き残るためには  
山と山におかした自身のからだを正しく(科学的に)とらえ  
ることが大事になる。  
意志的に見なければものは見えないものであり、よく見るようになる  
ためには反省を伴った見ることの反復が必要であり、反省のために  
言葉が不可欠となる。記録をとり報告書を残すという大儀は行  
為の本質の一部はこのようなものであり、この合宿ではこのことの  
理解の端緒を新人につかんでもらうことだけを望んでいた。しかし  
もとよりこのことは、係だけ考えであり、上級生に徹底していたもの  
ではなかつた。報告書のために残された記録トナには天候之  
書いてないものがあった。主情的に書く「キログ」もいくつかあり

意味があるが、山と自己を科学的にとらえるという観点からの主  
 和的記録が二山から欲しいと云った。もう一言加えたら山と  
 自己と集団（人間関係、or パーティシップ）をとらえるというこ  
 とになる。（岡本）

★気象係列

新人の天気図作成の習熟度に著しい差が見られた。入山以来  
 において放送だけでなく確実に記入できるように練習されてい  
 ないからなかつた。観天望気には余裕が  
 なかったようであるが、今後休憩時間より有効な利用が求めら  
 れる。夏合宿まで間があるかと思いがたが、思ったより短い  
 ようである。天気図も観天望気も一朝一夕では出来ぬもので  
 ない。夏合宿に向かって各自殊に新人合宿を苦勞に考  
 へ気象一般の研究を重ねておいてもらいたい。尚当分の手  
 ぬかりで中途にて天気図が足りなかつた。新人諸君の意  
 気よく書いて（ま、仕事を止めません）

（林田）

★会計係列

収入	208500 -	} 100200円強 余り。 二山は清川の口座に 振り込む予定。
支出	Essem 105700 -	
	Equip 20700 -	
	交通 70900 -	
	その他 1000 -	
	合計 198300 -	

一人頭約6000円弱の経費（かかからなかつた中  
 だけ）二山はEssem係に負う所が大きい。

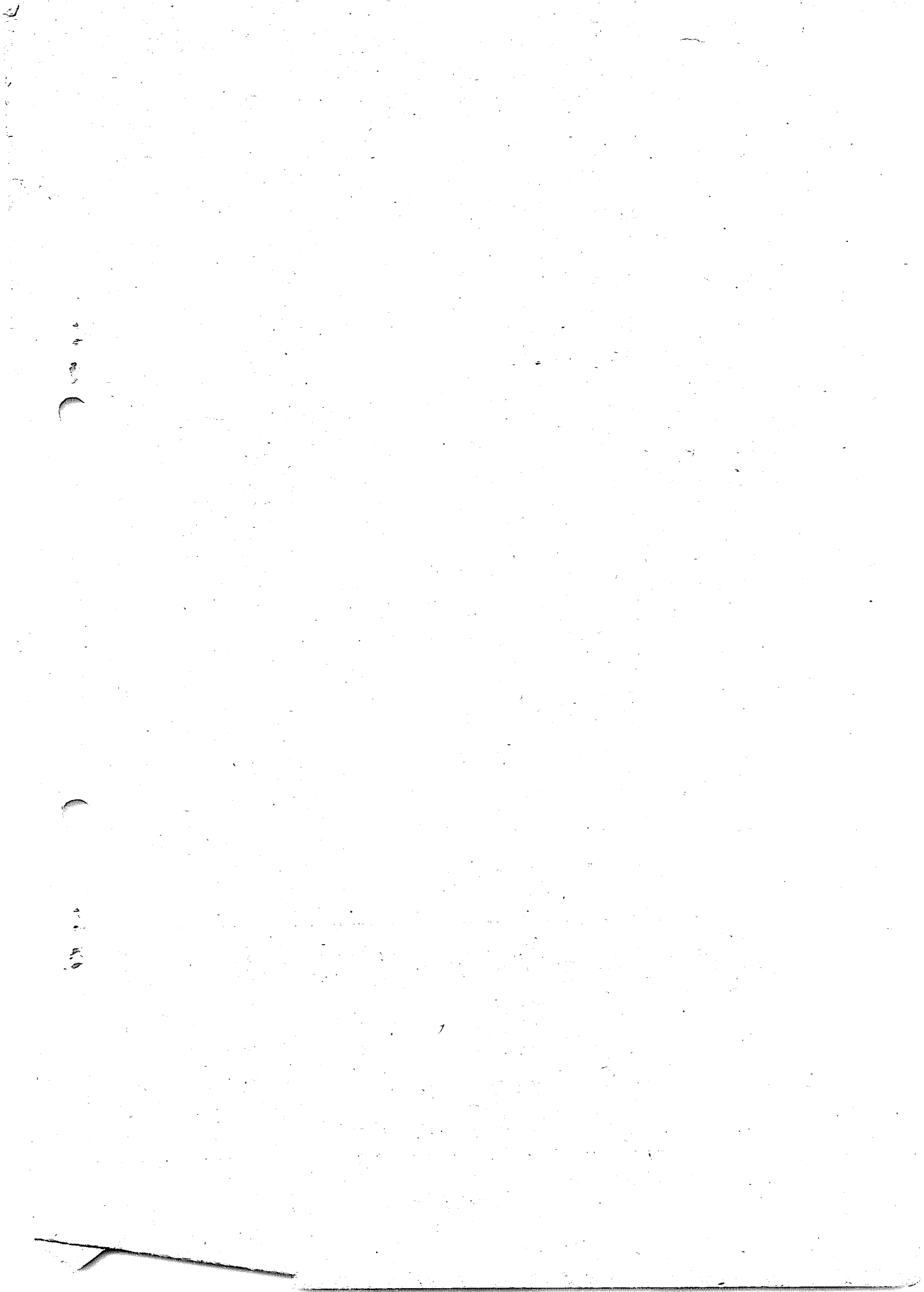
謝々？

（のびと）

— 後記 —

合宿総括はPart IIとして発行する予定です。





SAC1976 新人合宿報告書 I

発行日 1976、6、30

発行者 信州大学山岳会

編集 新人合宿記録係

印刷 松本部室